

「夜須高原スキーキャンプ」

- 1 趣 旨 冬季期間の代表的なスポーツであるスキー体験を通して、異年齢の仲間とともに切磋琢磨しながら、達成感やコミュニケーション能力を高めるとともに、スキーのもつ楽しさや面白さを感じられるようにする。また、インストラクターや職員との交流及び施設利用を通して、礼節やマナーを重んじる態度を育てる。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 (一財)サンビレッジ茜
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 間 【第1回】令和3年12月 4日(土)～12月 5日(日)
【第2回】令和3年12月18日(土)～12月19日(日)
- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家 〒838-0203 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
(一財)サンビレッジ茜 〒820-0711 福岡県飯塚市山口845-38
- 7 対 象 【第1回】小学3・4年生 【第2回】小学5・6年生
- 8 参加者 【第1回】参加人数：10名(小3：5名、小4：5名)
【第2回】参加人数： 8名(小5：8名、小6：0名)
- 9 日 程
 - 12月 4日(土) [人工芝スキー実習：サンビレッジ茜、生活体験活動：夜須高原青少年自然の家]
(午前)「サンビレッジ茜集合」 開会式、アイスブレイク、目標設定、スキー実習①
(午後)昼食、スキー実習②、バス移動
(夜間)夕食・入浴、ナイトハイキング、振り返り、目標設定
 - 12月 5日(日) [生活体験活動：夜須高原青少年自然の家、人工芝スキー実習：サンビレッジ茜]
(午前)朝食、バス移動、スキー実習③
(午後)昼食、スキー実習④、振り返り、アンケート記入 「サンビレッジ茜解散」
 - 12月18日(土) [人工芝スキー実習：サンビレッジ茜、生活体験活動：夜須高原青少年自然の家]
(午前)「サンビレッジ茜集合」 開会式、アイスブレイク、目標設定、スキー実習①
(午後)昼食、スキー実習②、バス移動
(夜間)夕食・入浴、ニュースポーツ(ポッチャ)、振り返り、目標設定
 - 12月19日(日) [生活体験活動：夜須高原青少年自然の家、人工芝スキー実習：サンビレッジ茜]
(午前)朝食、バス移動、スキー実習③
(午後)昼食、スキー実習④、振り返り、アンケート記入 「サンビレッジ茜解散」

10 活動の実際

【小学3・4年生】



【スキー実習】



【ナイトハイキング】



【全体集合写真】

【小学5・6年生】



【振り返り・目標設定】



【ニュースポーツ（ポッチャ）】



【全体集合写真】

11 感想

【小学3・4年生】

- スキーをすべるのがとてもたのしかったです。
- おはなしをいっぱいやってくれてうれしかったです。あと、スキーがだいたいできるようになったので良かったです。
- 行ったら、ただとまるだけかと思ったら、みんなのためになることも教えてくれた。
- 1日目は話を聞かなかった人が多かったけど、2日目はみんな（ほとんど）の人が話を聞けるようになっていたところが良かったです。
- スキーがとても楽しかったです。
- とてもスキーが楽しいことを教えてくれてありがとうございます。後、とてもうまくなったと思います。友だちがいるスキーは楽しいと思いました。とても楽しかったです。ありがとうございました。

【小学5・6年生】

- 挨拶や、ルール・マナーを守ることができるようになりました。
- スキーが上手になることができたし、生活面でも、いつもは早寝早起きができていなかったりしたけど、スキーキャンプをして、それができた。
- スキーのやり方も学べたが、人と関わるときなどのことも知れてよかった。
- スキーは最初うまくなかったけれど、上手になったから、努力は大事だと思いました。
- 自分のルールやマナーを見直せた。これからの生活にとっても大切なことが分かった。（と気付いた。）自分のスキーの学習を通して、人との関わりを深く結び、協力して、生活に活かすことができることに気付いた。

12 成果

- インストラクター（サンビレッジ茜）の指導のもと、グループ指導や個別指導で基礎から応用まで、一人ひとりに対して丁寧に指導していただいた。子どもたちに多くの励ましや賞賛、的確なアドバイスを通じて、参加者はスキーを楽しみながら、より高い技能習得を目指して、意欲的に実習を積み重ねることができた。また実習後半は、習熟度別のきめ細やかな指導をしていただいたことで、個人の技能の大きな伸びを見ることもできた。
- 活動全体をグループ単位で行うことを意識化したことで、次第にリーダー性や協調性、思いやりなどが芽生え、良好な人間関係を構築することができた。
- 挨拶、返事、感謝、時間厳守などの基本的な礼節やマナーを意識させることで、子どもたちが自ら気付いて行動できるようになり、人格の形成に繋がった。

13 課題

- 電子化が進み、広報チラシを各市町村教育委員会宛てにメール送付での通知や、ホームページでの掲載など簡素化したため、子どもたちの目には直接触れることがなく、参加人数が少なかった。今後は、保護者からの貴重な意見を受け、メール送付での通知及び近隣の学校に関しては、児童数分を印刷して紙媒体で配布するようにしていく必要がある。
- 単発な事業では参加人数が少ない現状である。今後は、受益者負担を視野に入れたバジジテストを実施していくプログラム内容に改善するなど、参加者が目標をもてる連続性のあるシリーズ事業の実施に向け、案を模索していく必要がある。
- 他施設との連携事業なので、企画・準備の早い段階から連絡・調整・情報交換を綿密に行っていく必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症及び荒天時などで、実習不可及び中止になった場合における動きやプログラム内容について、関係団体と事前に確認しておくようにしたい。